

己を信じて



農業大学校総合農学科
後援会長

雲崎 弘

昨年、政権が民主党から自民党に代わり、多方面に於いて政策が見直されている今、農業を取り巻く環境は依然厳しい状況にあると思います。

放射能の除染問題、TPP（環太平洋連携協定）問題、中国の影響による大気汚染問題等、数えればキリがありません。国が素早い対応と適切な対策を取ってくれる事を願って止みません。

これからの日本の農業はもともと若い人たちが活躍する、いや活躍できる分野だと私は考えます。

来年度百周年を迎える伝統ある農業大学校で学んだ皆さんの知識・技能・経験は、必ずや日本の農業の明るい未来に貢献できるものと信じております。

己を信じ、そして、感謝の気持ちを忘れずに、これからの人生を歩んでいってください。御活躍を期待しています。

地域に定着した農大祭

今にも雨が降りそうな曇天の下、11月11日に農大祭が開催されました。農大に隣接するJAの研修所が改築中とあって、例年とは異なる旧野菜花き試験場前の会場での開催となり、悪天候にもかかわらず、今年も長蛇の列で1200人ものお客様にお越しいただきました。各販売テントは賑わい、農産物も完売となりました。松代キャンパス最大のイベントは、すっかり地元に着したようです。そして、学生たちが地域とのつながりを学ぶうえでも大きな学習効果をあげています。



自分たちで
獣害被害を防ごう

学生たちが山際で作業をしています。何をしているのかわかりますか。実は、イノシシ等による農作物の獣害を防ぐための防護柵を設置しているのです。学校の農場や農作物は自分たちで守ろう。事前に農業試験場の柳沢俊一主任研究員から、シカやサル、イノシシ、ハクビシン等の獣害対策の講義を聞いていた学生たちは、理論とあわせて実践の意味を理解しているようにも思えました。



コラム
多彩な学生たち

住み慣れた郷土を離れ、多彩な人生経験を持つ友人と出会い、自分の発想や価値観の狭さを覆す。そのような役割を果たすのが小中学校や高校以上の「学校」だとすれば、農大も確実にその役割を果たしていると言えます。全国の他の農大とは違い、本校には、東京、大阪、名古屋といった他県出身者もいれば、大学を卒業、社会人も経験といった少し年上の「同級生」もいます。教師だけでなく人生の先輩から様々な教訓を学べるのも農大の魅力のひとつです。



若人の集いで発表

二月八日、東御市サザンホールでは恒例の「若人の集い」が開かれました。二年生の田中朋実さんとともに二年生の加藤香さんは出身地である宮田村の集落営農を例にとり「地域農業が目指すもの」と題した発表を行いました。伴野審査委員長からは「農大の発表は大変すばらしい内容だ」との評価をいただきました。



演

調理学実習

おめかしして学生たちが並んでいます。これも授業のひとつ、寺島恵子先生の調理学実習の二コマです。前菜から始まり、スープ、魚、肉、そして、デザートまで、フルコースのフランス料理をマナーを間違えずにこなすのは意外に大変です。「へえ、グラスを合わせて、乾杯と音を鳴らすのはマナー違反なんだ」

ホテルでバイトをしたことがある学生も知らないことがあるように勉強になると口にしていました。



教授登場



フラワーデザイン
中澤 純子先生

「季節をテーマに作品を作ってもらいます。今日はバレンタインデーですよね」
先生の指導を受けながら、鉢で枝を切ったり鉢のデザインとの組合せを工夫したり、学生たちは花の山と格闘していますが、しばらくすると一人ひとり個性豊かな作品ができあがっていくのが不思議です。
「同じ花を使っているけど、一人ひとりの個性が出て楽しいですよ。基本を教えるだけで独創性にたけた生徒が多いし、色への感受性にすごさを感じます。作品を見るだけでひとりひとりの個性がわかりますね」と語る中澤先生は本校の先輩です。ここでの授業をベースにフラワーアレンジメントの資格も取れるとのこと。「卒業してから花関係の仕事に就くことを考えているのであれば是非、花のデザインも学んでほしいですね」

二年生プロジェクト発表会〜関東ブロックで第二位



平成二五年二月二四〜二五日には、山梨県において、関東ブロック農業高等学校等実績発表会が開催されましたが、中島さんの発表が見事第二位を射止めました。
中島さんは二月十九〜二日に都内で開催された全国プロジェクト発表大会にも出場し優良賞を獲得しました。



平成二四年十二月五日、六日の二日間、松代キャンパスにおいて、総合農学科二年生五十一名のプロジェクト発表会が開催され、中島香奈さんの「トルコギキョウ秋切り栽培における波長別光照射技術の検討」が最優秀賞に、鰐部真梨さんの「リンゴシナノドルチエにおける摘果方法と摘果時期の違いによる心かび病発生と比較」、吉川純平さんの「マルチの種類がダリアの生育開花と品質に及ぼす影響」、田中朋実さんの「ふじにおける農葉の散布がシンクイムシ類の発生に及ぼす影響について」が優良賞に選ばれました。

世界の農業を学ぶ

「将来どの国を訪れてみたい？」ワークショップ形式で各班にわかれた学生たちはカードに次々と国名を書いていきます。アメリカと書いた学生は人もおらず、スイス、スペイン、イタリア等の欧州諸国に加えて、カナダ、チリ、ロシア、韓国といった国名も並びます。

「では、日本がお金を出して海外協力をする目的はなんだろう」コーディネーターの先生の質問には「アメリカから言われて仕

方がなく」と鋭い回答も飛び出します。

駒ヶ根市には国際協力機構青年海外協力隊訓練所があります。グローバル化が進む中、国際的な視野を身に付けてもらうため、二月五日に二年生は訓練所を訪れました。外国人の先生がいた。壁のポスターに読めない文字が書かれていた。開発途上国に興味を持った。若い学生たちの感性はこちらの想定をはるかに超えた反応をします。とりわけ、学生たちを魅了したのは、伊那市で農業を営む元協力隊員の伊藤茂昭氏のバン格拉デシユでの稲作援助のお話でした。「自啓察はいまどうなっている」伊藤氏が農大卒の先輩と聞いて学生もびっくり。二見遠い海外農業も先輩の生の体験を聞くと思近なものに思えてきます。学生とともに、農業大学の持つ人材の広がりとお深さを改めて実感した二日でした。



最後の実習、スキー教室

二月九日、二〇日に二年生は最後の校外実習となる体育の授業で、志賀高原でスキー・スノボ教室を楽しみました。社会に巣立つ卒業生たちを祝福するかのよう現地は目にまぶしいほどの青空で、学生たちはそれぞれの技量に応じ、寮の仲間と過ごす最後の時間を思い思い楽しんでいました。



お知らせ 農学部専門技術科の閉科について

専門技術科は、昭和60年4月、農業改良普及員等農業指導者の養成を目的に専攻科として設置され(平成14年に名称変更)、以来、279名の卒業生を輩出しました。平成25年3月に最後の卒業生を送り出して閉科となります。

後輩となる皆さんへ!

私は将来、就農するつもりで農業大学校に入学しました。農大では多くの仲間と出会い、農業を学ぶ以外にも人として成長できたと感じています。

卒業後は日本農業経営大学校に進学します。農大での現地体験実習や各地の視察を通して、これからの農業には経営というスキルの必要性を感じたからです。経営大学校では、マーケティングや営業方法を力を入れて学び、農大で学んだことを活かしながら農業を牽引できる人間になれるよう頑張りたいと思っています。

農大は長野県の普及指導員や研究者として活躍されている先生方から、いろいろな知識を教えてもらえます。農業に興味がある、将来、農業を目指したい。そう思うならば是非農大に足を運んでみてください
(尾曾和成さん 25年3月卒業)



アンティーク農大

長野県農業大学校は一九三三年（大正二年）に創立後、幾多の変遷を重ね、平成二五年に二〇〇周年を迎えます。記念誌・写真集の編纂・発行、記念碑の建立等の記念事業が行われ、今年一〇月二五日にはメルパルク長野で記念式典・祝賀会も開催される予定です。その間、各界・各分野で活躍する卒業生は九九〇〇余名にも及びます。今回も過去の農大生の姿を少し紹介します。先輩たちの授業や自習風景は、今ではまるで異国のようにも思えます。



設立一〇〇周年を迎える農業大学校

平成24年度総合農学科卒業生の進路状況

平成25年2月28日現在

就農 [9名]	自営[4名]	●自家就農(4名)
	農業法人等[5名]	●(株)安曇野水田カンパニー ●(有)安曇野ファミリー農産 ●信州白樺牧場 ●(有)ティーエム ●里親研修
就職 [29名]	公務員[2名]	●長野県 ●高校実習助手
	農業協同組合等 [13名]	●グリーン長野(3名) ●ながの ●信州うえだ ●大北(3名) ●松本ハイランド ●佐久浅間 ●みなみ信州 ●下伊那園芸 ●木島平村振興公社
	農業関連企業 [11名]	●ジェイエイ・アップル(株) ●(株)アグロ信州 ●(株)飯田青果 ●(株)中セキ信越 ●(株)コメリ ●住化農業資材(株) ●(株)トマツ本店 ●(有)フラワーショップ花季(2名) ●(株)やまへい ●ヤンマー農機販売(株)
	その他企業[3名]	●サンリエモア(株) ●(株)共栄製作所 ●(株)ジン・コーポレーション
進学[3名]	●日本農業経営大学校 ●東京農業大学農学部(編入) ●農業大学校野菜花き研究科	
その他[7名]		